

不易流行 恩送り

ライオンズクラブ国際協会 335-D

キャビネット通信



熱く・明るく・楽しく

Vol 9 2024年2月

本キャビネット通信は不定期発行です

DISTRICT 335-D

2023年～2024年

本通信は情報の伝達のために発行しております。内容詳細やガバナーの想い、ガバナーの熱意については、担当ゾーン・チェアパーソンからお受け取りください。

新年早々大きな災害が起ってしまいました

governor 廣田 晃一からのメッセージ

誰もが新年の期待を込めて迎えた元日に能登半島で大きな災害が発生してしまいました。この原稿を書いている時点で死者数は251名に上り、安否不明者数19名という大災害です。亡くなられた方のご冥福をお祈りするとともに被災された方々の一日も早い復興をお祈り致します。災害発生の翌日にはLCIFが大災害緊急援助交付金として10万\$の支出を決定し、日本の全クラブにも会員おひとりあたり2000円の能登半島地震大災害復興支援のお願いをしております。これについてはシェアリングの対象にはなりません。100%能登半島地震の復興支援に特化して交付されます。そして334複合地区協議会議長及び334-D地区ガバナー名で334D地区能登地震災害支援金口座が開設され、支援のお願いがきております。こちらは緊急支援に対して使われるお金と考えて下さい。他方、珠洲市に対して(※)カウンターパート方式で珠洲市災害義援金口座へ直接義援金を寄付するという方法もあるでしょう。そしてライオンズメンバーの存在意義である労力奉仕や物資の供給を現地で行うメンバーやクラブもあると思います。

我々が現時点でできること・・・方法は幾つもあるでしょうが、紛れもなく奉仕だと思います。「令和6年能登半島地震」に対して皆様方には是非とも緊急支援・復興支援についてライオンズメンバーとして金銭奉仕・物資奉仕・労力奉仕の何れかにご協力をお願い出来たらと切に願っております。どうか宜しくお願い申し上げます。

さて我々335-D地区ですが、2023年12月までの半期でLCIF目標金額の20万\$を超え、未協力クラブについても0クラブ達成し、目標金額達成&未協力クラブ0を日本最速で達成することができました。これにつきましては国際財団HPの「2023-2024年度LCIFニュースレター」に掲載される予定です。また、100%例会につきましても54クラブ中で30以上のクラブが達成して下さったと聞いております。惜しくも100%とはならなかったけれど、チャレンジしてみてもホントに良かったというお話しも沢山いただき、情熱を持って皆さんとお話しができて心から喜びを感じています。

そして1月末現時点で会員数1578名、退会者42名に対して66名の新会員が入会して下さり純増24名となっております、心から感謝申し上げます。引続き「不易流行 恩送り」と「100 熱く明るく楽しく」をモットーに私も100%で突っ走りますので、最後まで叱咤ご鞭撻のご指導を宜しくお願いします。

(※)カウンターパート方式とは、被災した自治体に特定の応援する自治体を割り当て、様々な支援を重点的かつ継続的に行う方式で、被災自治体と支援自治体を割り振って支援したのが始まり。日本では関西広域連合が2011年の東日本大震災の際に行ったのが最初である。

クラブ満足度向上のために

GLTコーディネーター 矢野 耕司より

昨年10月に前MD335議長L吉村弘吉をお迎えし、クラブ満足度向上には「ウェルビーイング」(心身と社会的な健康)が必要、ウェルビーイングであるには新入会員が気兼ねなく自由に意見を述べる事ができるなど、心理的安全性が必要だとお話いただきました。また、12月には(一般社団法人)日本ライオンズの理事長であるL田名部智之をお迎えし「ココロのリミッターを外せ!!」と題してガバナー就任中に実質10クラブを設立されたお話をお聞かせいただきました。自由な発想で新クラブを作ろう(SCPの利用など)時代のニーズに沿った新しいアクティビティを提案していこう!というお話が印象的でした。「自由な発想」これこそがクラブ満足度向上のキーワードなのかもしれません。